

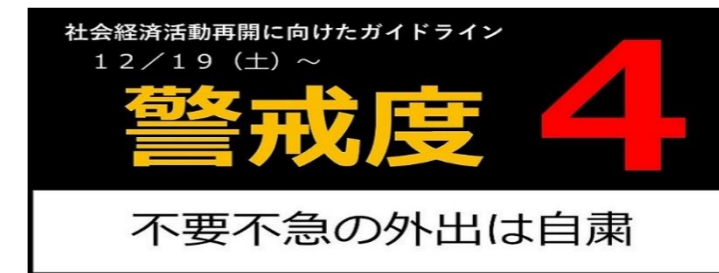
新型コロナウイルス感染予防

冬休み中の対応（生徒用）

桐生大学附属中学校

- ・ 毎朝、検温を行い、発熱やだるさ等の風邪症状がないかチェックして、「健康観察表」に記入する。
 - ・ 体温が37.0℃以上または37.0℃未満であっても、平熱より高い場合や風邪症状がある場合は、自宅で休養する。
 - ・ 新型コロナウイルス感染が疑われる場合、気になることがある場合は、まずはかかりつけ医等の地域で身近な医療機関に「電話で相談」する。併せて学校（担任）にも連絡する。
 - ・ PCR検査を受けることになった場合や濃厚接触者となった場合は、学校（担任）に連絡する。
 - ・ 冬休み中も日常生活の中での「新しい生活様式」を心がける。
- ☆「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いによる手指衛生」をはじめとした基本的な感染対策の徹底をする。
- ☆政府専門家会議で示された「人との接触を8割減らす、10のポイント」「新しい生活様式の実践例」、及び新型コロナウイルス感染症対策分科会で示された「感染リスクが高まる「5つの場面」」を参考に、3つの「密」状態を回避するとともに、日々の生活を見直し、新たな感染防止策を実践する。
- ☆寒冷な場面における感染防止策として、基本的な感染防止対策の実施に加え、換気の実施及び適度な保湿をする。

- ・ 群馬県は、12月19日（土）から警戒度4になります。



寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント

1. 基本的な感染防止対策の実施
 - マスクを着用（ウイルスを移さない）
 - 人と人の距離を確保（1mを目安に）
 - 「5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に○3密を避ける、大声を出さない
2. 寒い環境でも換気の実施
 - 機械換気による常時換気を（強制的に換気を行うもので2003年7月以降は住宅にも設置。）
 - 機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で常時窓開け（窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！）また、連続した部屋等を用いた2段階の換気やHEPAフィルター付きの空気清浄機の使用も考えられる（例：使用していない部屋の窓を大きく開ける）
 - 飲食店等で可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により1000ppm以下（*）を維持
*機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。
3. 適度な保湿（湿度40%以上を目安）
 - 換気しながら加湿を（加湿器使用や洗濯物の室内干し）
 - こまめな拭き掃除を



群馬県ホームページより

※詳しくは、群馬県のホームページを参照してください。

<https://www.pref.gunma.jp/>